

式

辞

先週までの寒の戻りが去り、穏やかな3月1日を迎えました。

本日、橘高等学校第73回卒業証書授与式を皆様のご協力により実施できますこと、校長として安堵しております。

ただいま、卒業証書を手にした皆さん、卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、ご家族の皆様には、お子様の晴れの卒業式へのご出席を楽しみにしておられたと存じますが、一家族一名の出席にご理解をいただき、また、感染症対策にご協力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、私と卒業生の皆さんは、この橘高校で2年間、一緒に生活しました。この2年間は新型コロナウイルス感染拡大との戦いの毎日でした。

皆さんが、中堅学年として橘高校の中核を担おうとする時期の全国一斉休校。

治まったかと思うと繰り返される感染拡大の波。

皆さんが楽しみにしていた修学旅行も、断念せざるを得ませんでした。

何より、皆さんが1年生の時に体験した「たちばな文化」、橘高校はこうなんだ、高校生はこんなことができるんだ、と感じたことを、今度は皆さんが実行する立場になる。

その活躍の場が失われたことは、本当に残念なことでした。

でも、ちょっと違う見方をすると、皆さんは1年生の時に橘高校での学校行事・生徒会行事のほとんどを体験しています。これは私や、在校生が体験できなかったことです。

とても羨ましい。

実際に体験できたことは素晴らしいことだったと、ぜひ、感じてください。

コロナ禍にあった2年間、皆さんが、何か自分たちにできることはないか、と考え、行動し、形に表してきたことは、素晴らしいことでした。中でも一昨年秋、新入生歓迎実行委員会による新入生歓迎の飾り付けと、実行委員長島貫さんの言葉は、私のこの2年間で最も印象に残ったものでした。

恐れるばかりの1年から、考えながら何かやろうという1年に変化した今年、公開文化祭こそできませんでしたが、文化センターでのステージ・校内でICT技術を駆使したたちばな祭の実施などにより、たちばな文化は確実に皆さんの後輩に受け継がれています。

今年も、後輩たちが皆さんの卒業を祝う飾り付けをしてくれました。

昨日のムービーも思いがこもっていましたね。

今年のテーマである、花開自新（～未来（イキサキ）はただ前だけ～）は、在校生から卒業生へのエールです。

次に、皆さんがこれから生きていく社会を考えます。

皆さんがこれから生きていく社会は、ソサエティー5.0と言われ、情報社会を越えて、経済発展と社会的課題の解決を両立しようとする社会です。

この社会を、どう生きれば良いのか、生きるために大切なことは何なのでしょう。

私は、これまで以上に正しい情報、間違った情報を判断することだと思えます。

そして、判断の次は行動です。指示を待っているだけではダメです。

これまで、言われたことをきちんとやっていたら良かったかもしれない。

言われたことだけを素直にやって褒められる時代からは卒業です。

これは、すぐにはできません。少しずつ、少しずつでいいんです。

自分の判断で、責任を持って行動できるようになる。それが、大人になることです。

この4月から、成人年齢が引き下げられ、法律的には18歳成人となります。
成人となる皆さんに、これだけは言っておきたい。
政治が悪いというなら政治を変えましょう。行政に関心を持って意見をいみましょう。
社会がこうなってほしいと思うなら、小さな一歩でもできることから行動しましょう。
今、世界では戦争が起きています。
グローバル社会において、対岸の火事ではあり得ません。
日本はどうすれば良いのか、私たちに何ができるのか。
ともに、考えて行動していきましょう。

橘高校での3年間の学びは、皆さんが、一步一步大人になる、そのための学びだったはず
です。この3年間の学びを礎に、新しい未来を切り開いていってください。
健康に気をつけ、思う存分目指す道に進んでください。

保護者の皆様、改めて、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。
今朝のお子様の姿はいかがでしたか？入学時とは比べものにならないほど、眩しく成長し
た姿があったのではないのでしょうか。
高校での3年間は、心身共に大人へと成長する変化の大きい3年間です。心と体のバラ
ンスが保たれているときばかりではなく、お子様の変化に戸惑われることも多かったのでは
ないかと思います。
私たちが育った頃と比較して、今の高校生達の方が数段意識や能力が高く、できることが
沢山あります。社会貢献やこれから自分がなすべき事も真剣に考えています。ただ、様々な
ことを気にするあまり、なかなか自信を持って踏み出せない面も見られます。

高校を卒業しても、夢を形にしたり、目指す道にたどり着くまでは、もう少し、いや、ま
だしばらくの時間がかかります。
今日は、橘高校の卒業を祝いながら、これからもお子様を温かく見守り、成長を楽しみに
していただきたいと思います。これまでの、本校の教育活動、PTA活動等へのご理解、ご
支援、誠にありがとうございました。

結びに、卒業生の皆さん、保護者の皆様、そして教職員を含めた橘高校に関わる全ての皆
様のますますのご健勝をお祈りし、式辞といたします。

令和3年3月1日

福島県立橘高等学校 校長 加藤知道